



南あわじ市消防団の活動実態調査

🔥 消防団に関するアンケート

◆対象：男性消防団員

2,155人

◆回答数：1,549人

◆回答率：71.8%



令和3年8月25日

消防団員 各位


南あわじ市消防団
団長 波戸崎 直弘

【依頼】南あわじ市消防団の活動に関するアンケート調査について
第1方面隊

平素、団員の皆様には、消防団業務にご精励いただき、厚くお礼申しあげます。
さて、全国では消防団員が2年連続で1万人以上減少し、数年後80万人を割り込む事
態となっている中で、本団は皆様の団員確保のご尽力で、団員数は南あわじ市合併当初か
らほぼ変わりません。しかし、合併から16年が経過した今、人口減少もある中で、本団
の取り巻く環境について現状や課題を共有し、今後、消防力を維持しつつ団員の負担軽減
につなげていくためアンケート調査を実施します。今後の具体的な取組を検討する上で、
大変重要な情報となります。
団員の皆様におかれましては、公私ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、ご協力くだ
さいますようお願いいたします。

回答期限 9月26日(日)

回答方法 できるだけ①の方法で回答いただきますようお願いいたします
① お手持ちのスマートフォンもしくは携帯電話で以下のQRコード
を参照し、ご回答ください。
<https://www.e-hyogo.elg-front.jp/hyogo/uketsuke/form.do?id=1622706837815>



第一方面隊用アンケート QRコード

② 返信用封筒での郵送
③ 危機管理課(市役所本館3階)

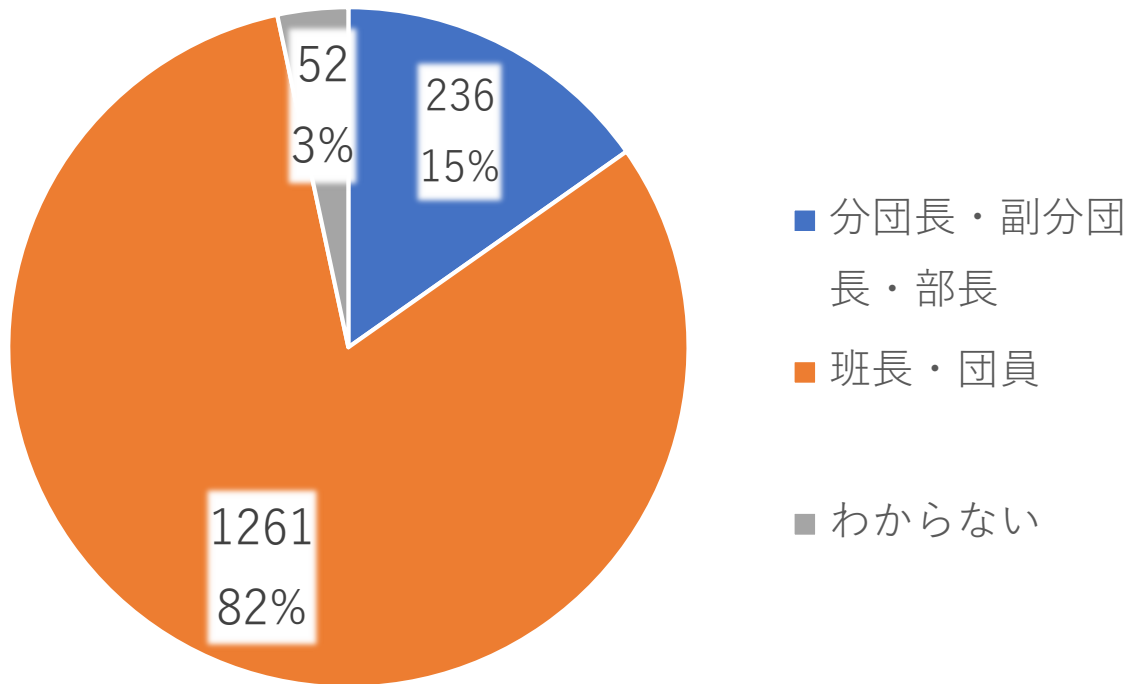
南あわじ市危機管理課 河尻・前田
電話 43-5203
FAX 43-5303
(裏面に第一方面隊の分団情報を記載)



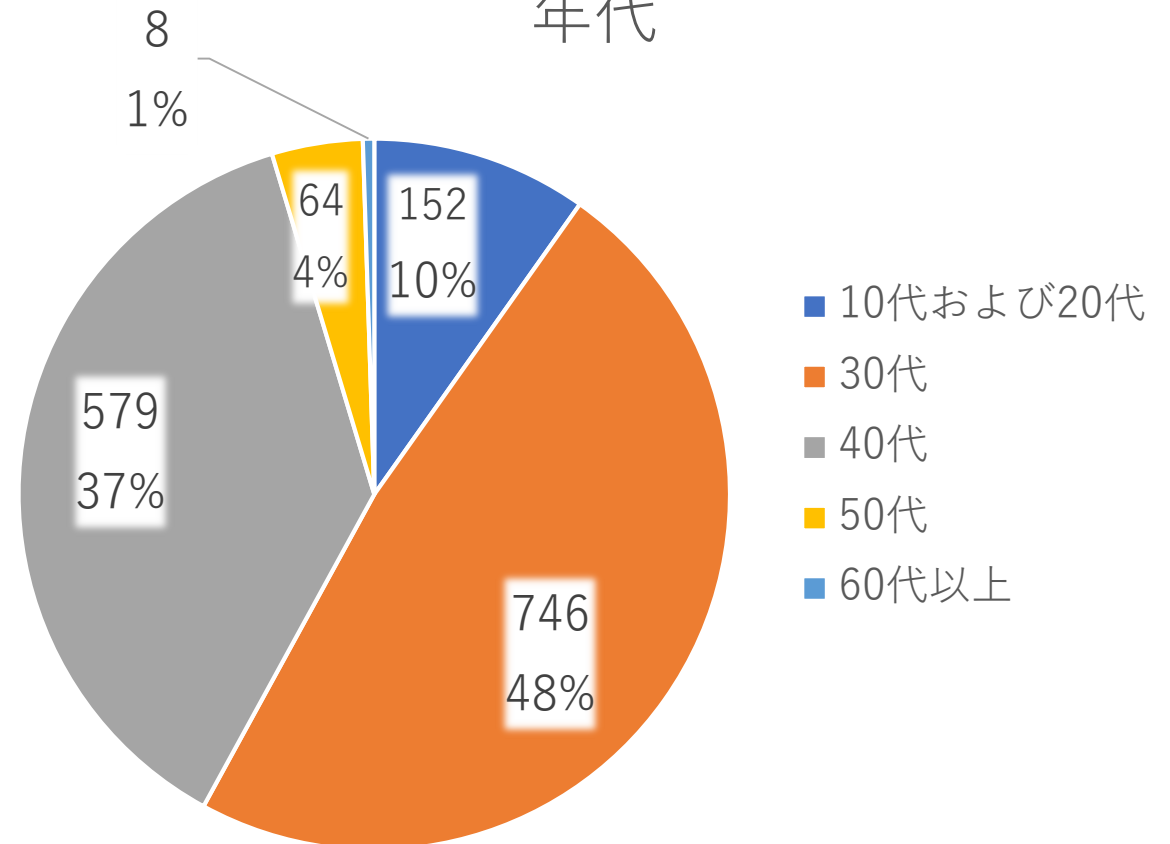
回答した団員の階級と年代 (回答数1,549人)



階級



年代





消防団に対する魅力調査



消防団活動に対するやりがい（複数回答可）

回答	回答数 (A)	A/1,549人	割合
消火活動（消防署の消火活動の補助を含む）	486	31%	21%
消防操法（練習を含む）	122	8%	5%
市民等に対する消防訓練等の指導	54	3%	2%
行方不明者の搜索活動	97	6%	4%
救急救命講習の受講および実施	45	3%	2%
火災予防運動	83	5%	4%
地域行事（お祭りなど）での警備活動	65	4%	3%
いざという時に必要とされること	466	30%	20%
地域の若者たちとの交流	310	20%	13%
ない	551	36%	24%
その他	29	2%	1%

消防団員としての意識が高い

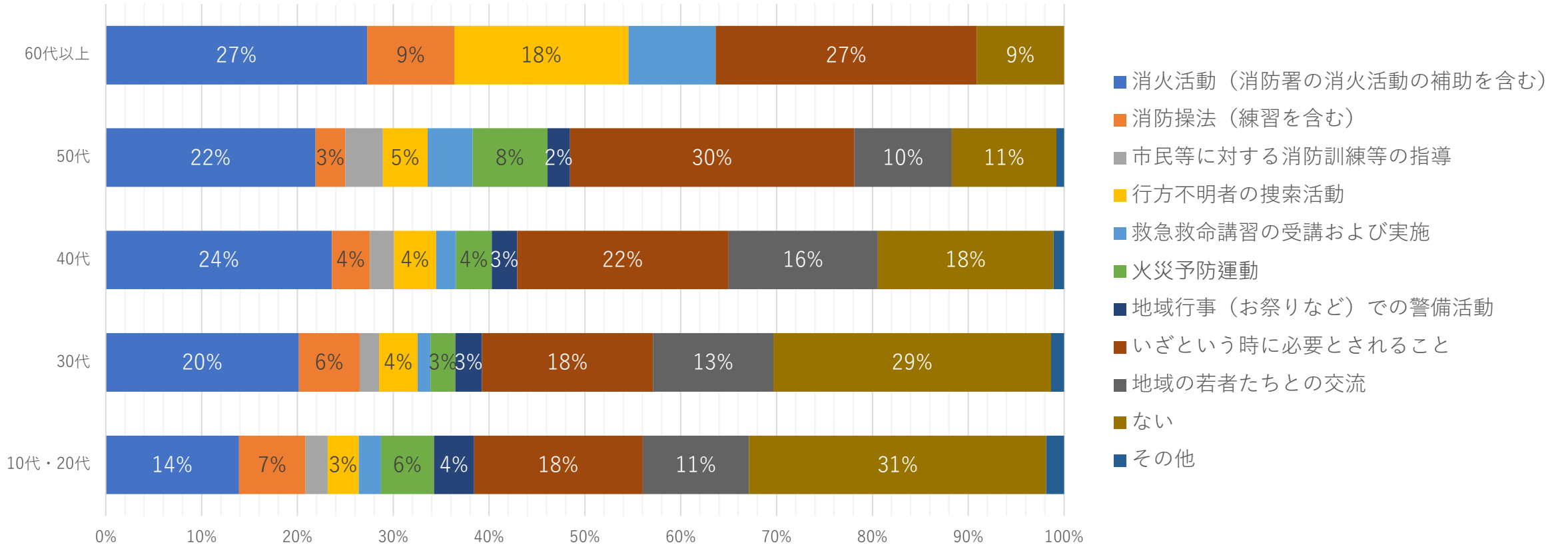
交流の場としても活用



消防団に対する魅力調査



消防団活動に対するやりがい（年代別）





消防団活動に対する意識調査



団活動でやりたいこと（複数回答可）

回答	回答数 (A)	A/1,549人	割合
大型車両や重機の免許取得の助成	633	41%	31%
救急救命講習	246	16%	12%
チェーンソー等救助資機材の使い方の指導	274	18%	14%
消防学校での講習参加	45	3%	2%
地元の子どもに放水訓練や消防車両を見せることで消防団を知ってもらう	209	13%	10%
若手団員同士の交流会	188	12%	9%
女性分団との意見交換会	88	6%	4%
その他	330	21%	16%

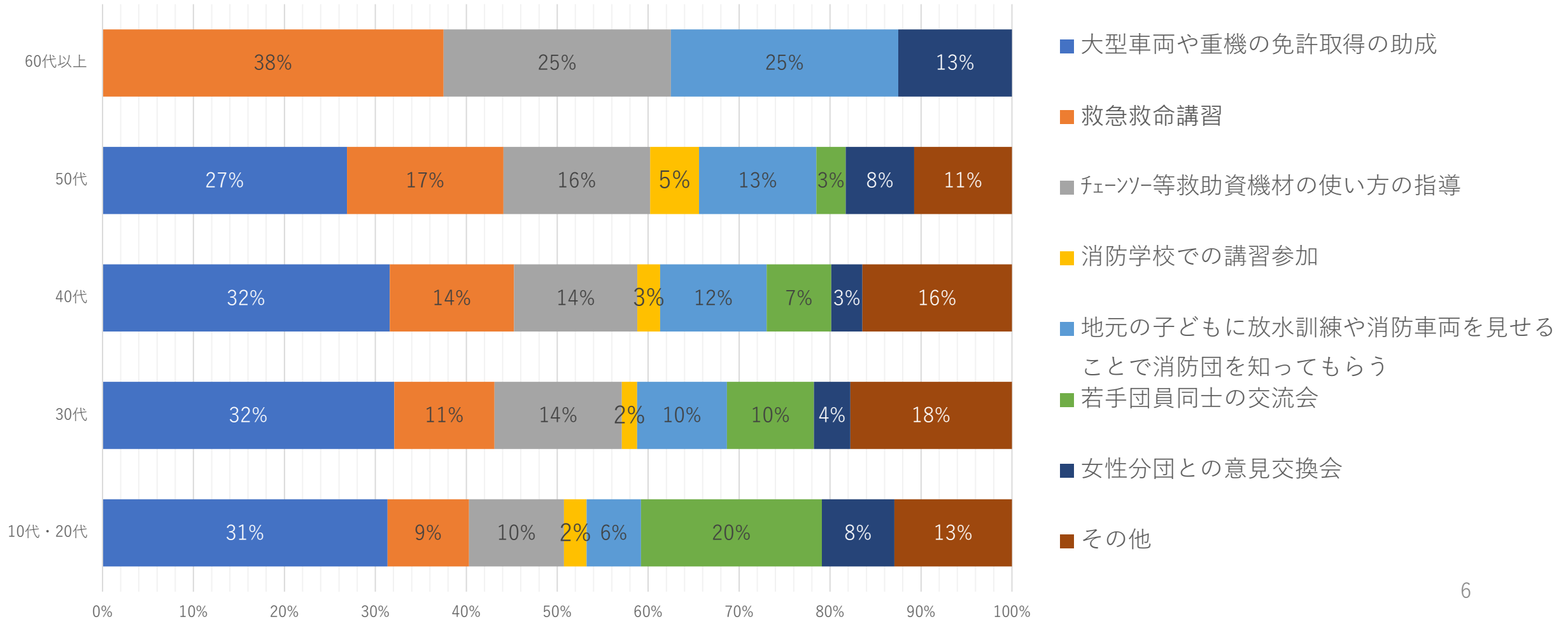
技術習得の意識が高い



消防団活動に対する意識調査



団活動でやりたいこと（年齢別）





消防団活動に対する意識調査



団活動で負担に感じていること（複数回答可）

回答	回答数 (A)	A/1,549人	割合
火災現場での消火活動	178	11%	4%
消防操法出場	992	64%	24%
消防操法大会に向けた訓練	1085	70%	26%
水防活動	126	8%	3%
住民の避難誘導	66	4%	2%
住民への訓練指導	87	6%	2%
火災予防運動の広報活動	104	7%	3%
年末夜警や初出式	679	44%	16%
救急救命講習	87	6%	2%
定期的に行うポンプ点検	219	14%	5%
飲み会	222	14%	5%
ない	232	15%	6%
その他	59	4%	1%

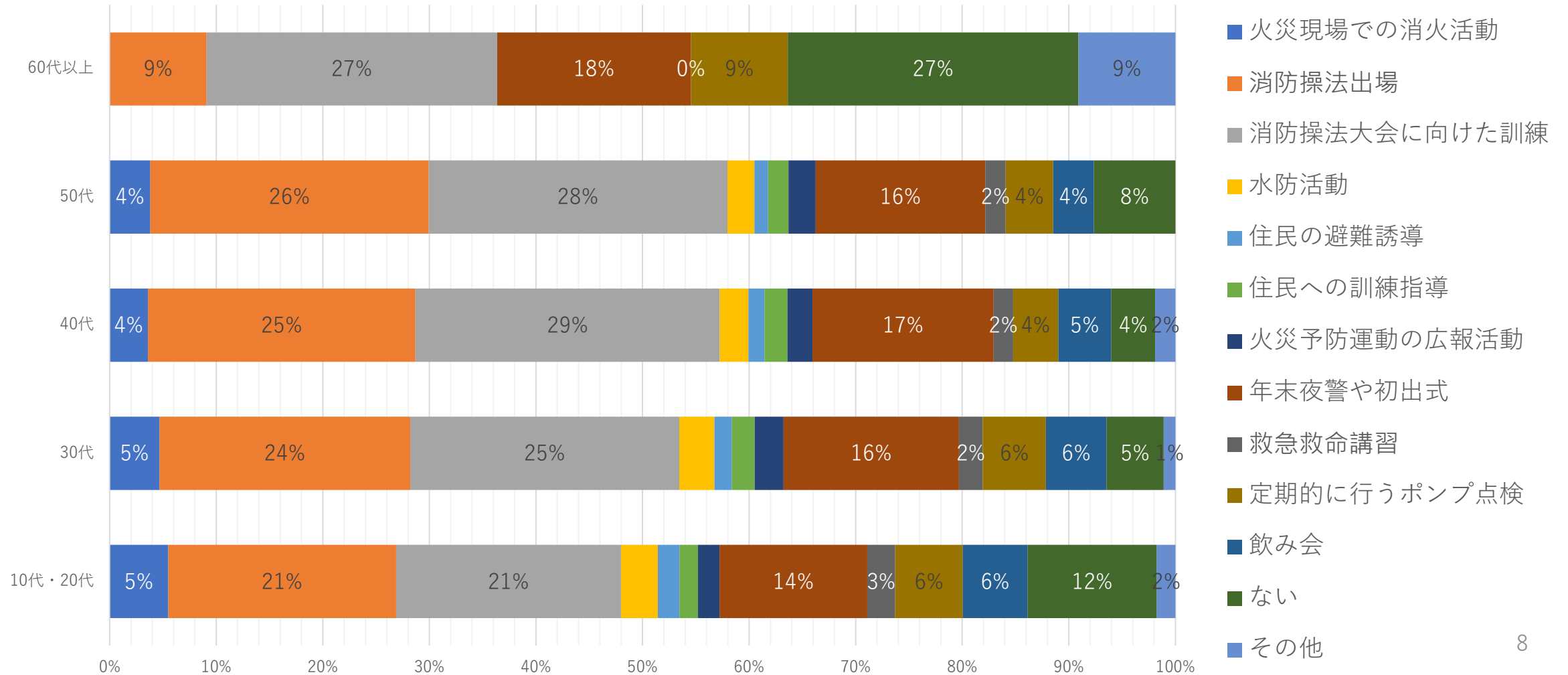
消防行事の負担



消防団活動に対する意識調査



団活動で負担に感じていること（年齢別）

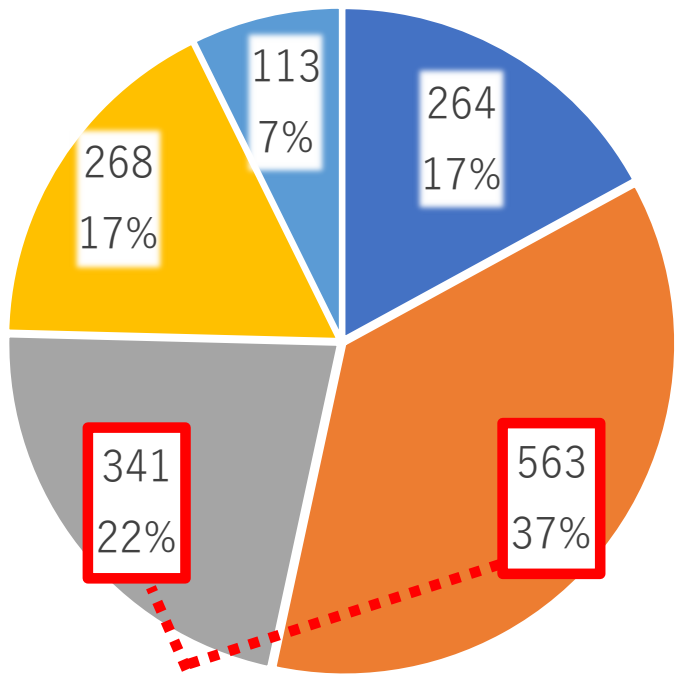




消防団活動に対する意識調査 (回答数1,549人)

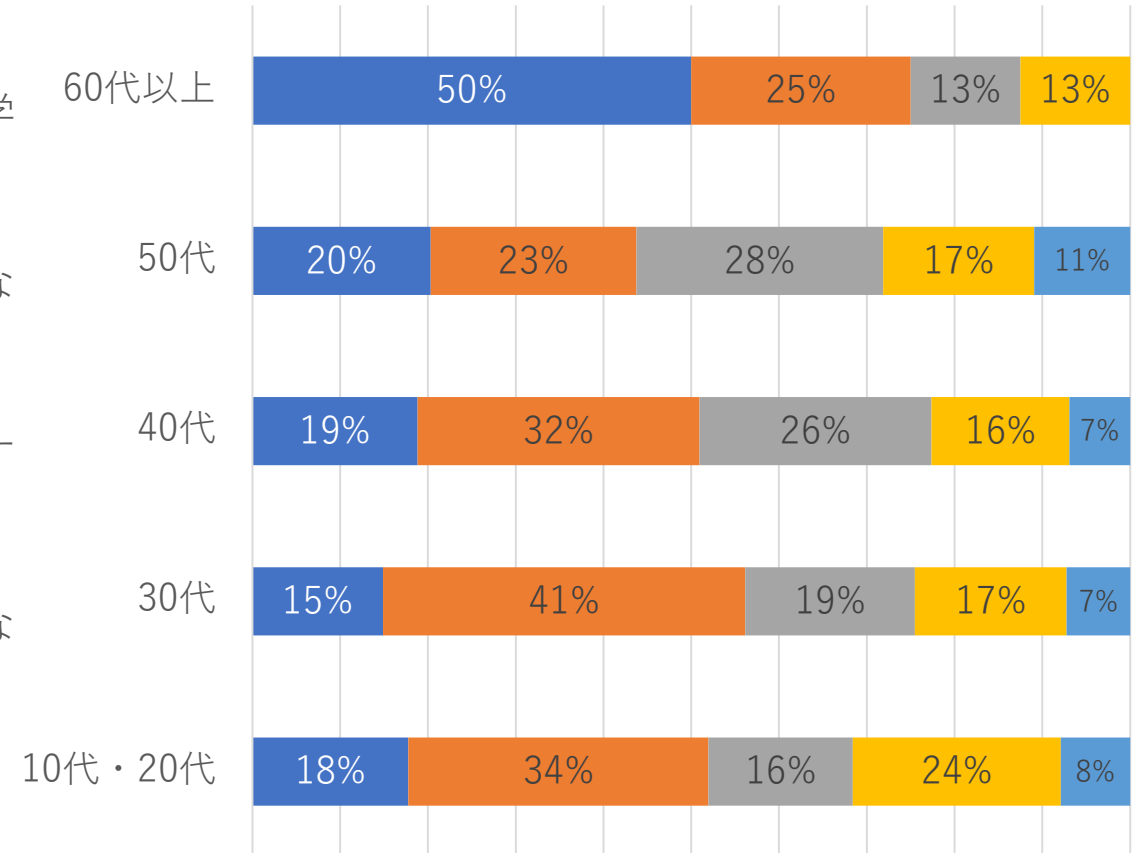


消防操法の必要性



- 消防技術や規律を学ぶため必要
- 消火活動で役立つので不要
- ポンプ点検で放水するので不要
- 慣習なのでわからない
- その他

操法を不要の回答が約 60%

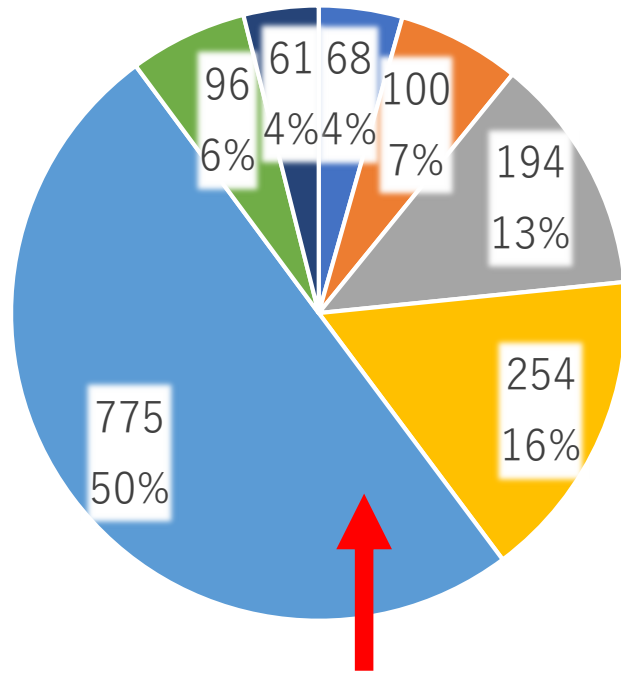




消防団活動に対する意識調査 (回答数1,549人)

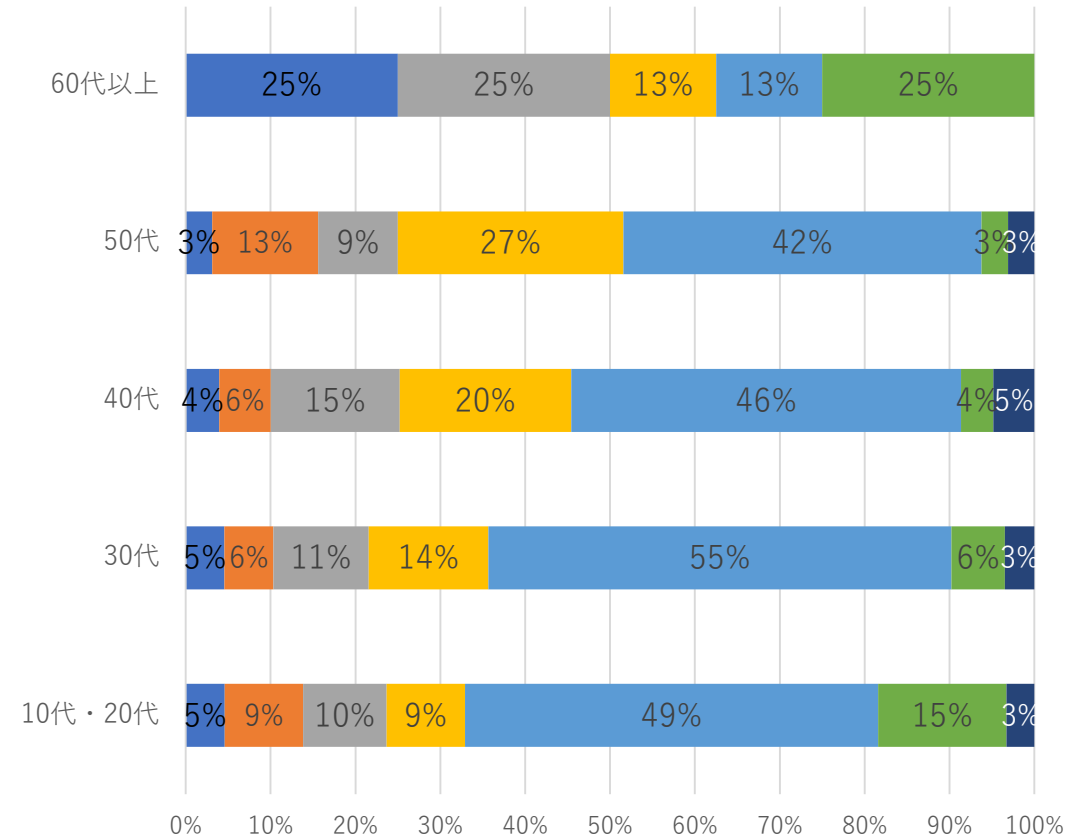


消防操法の今後のあり方



- 今までどおり練習し大会に出場する
- 練習回数を減らす。時間制限をかける
- 大会を選抜制で分団の出場回数を減らす
- 操法より実践に近い訓練に変える
- 操法をやりたい分団だけです
- わからない
- その他:

希望する分団のみ操法を取り組むという意見が50%あった

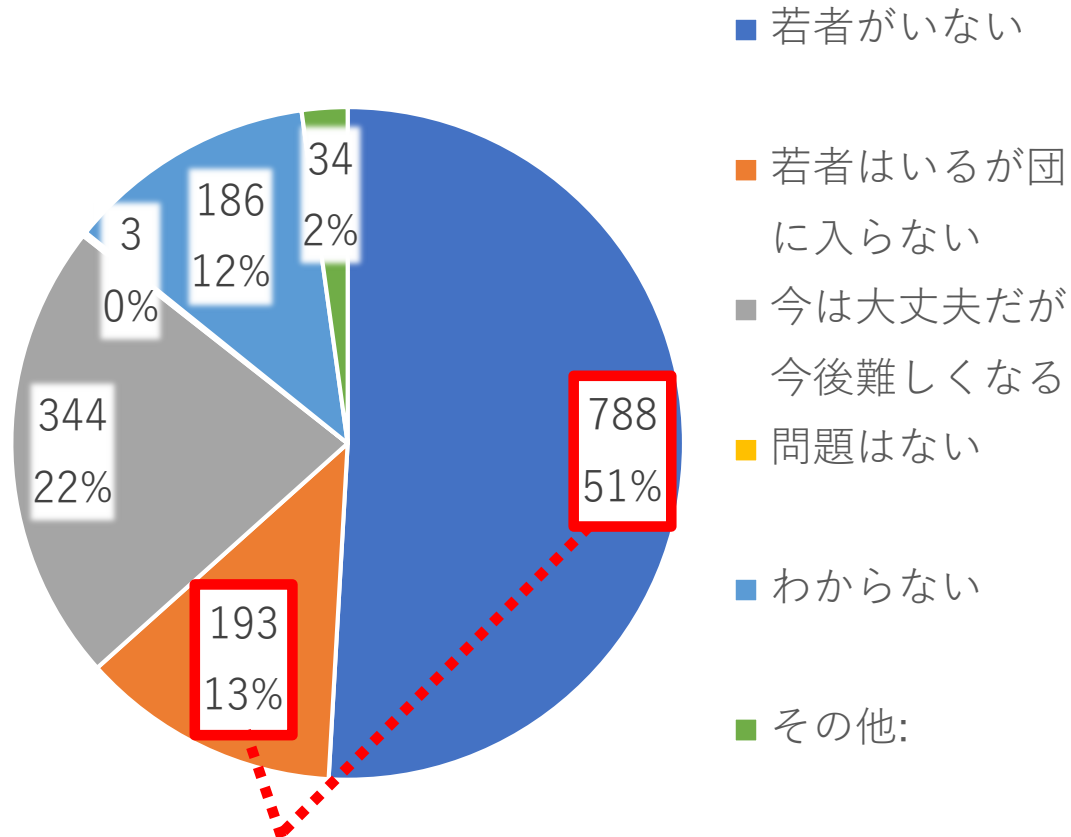




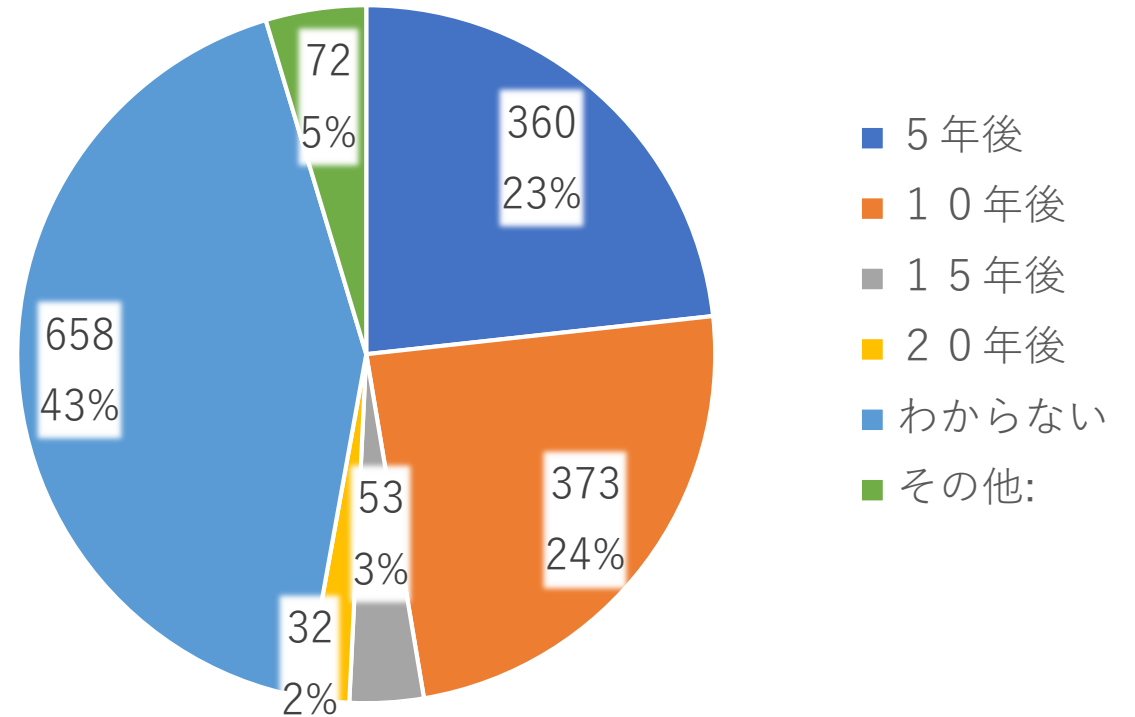
団員確保のための調査 (回答数1,548人)



新入団員の確保について



所属分団がいつまで活動できるか



入団する団員がいないという回答が60%以上



団員確保のための調査



消防団へ入団するために支障になっていること

回答	回答数 (A)	A/1,548人	割合
消防団活動に時間を使うより自分のことに時間を使いたい。	900	58%	18%
仕事柄、消防団活動に参加できない	644	42%	13%
報酬・手当が少ない。	386	25%	8%
火災や風水害時の防災活動	142	9%	3%
消防操法大会出場	725	47%	14%
消防操法大会に向けた訓練	737	48%	15%
年末夜警や初出式	461	30%	9%
定期的に行うポンプ点検	180	12%	4%
飲み会	248	16%	5%
人間関係	352	23%	7%
わからない	176	11%	3%
その他	115	7%	2%

活動に割く時間がない

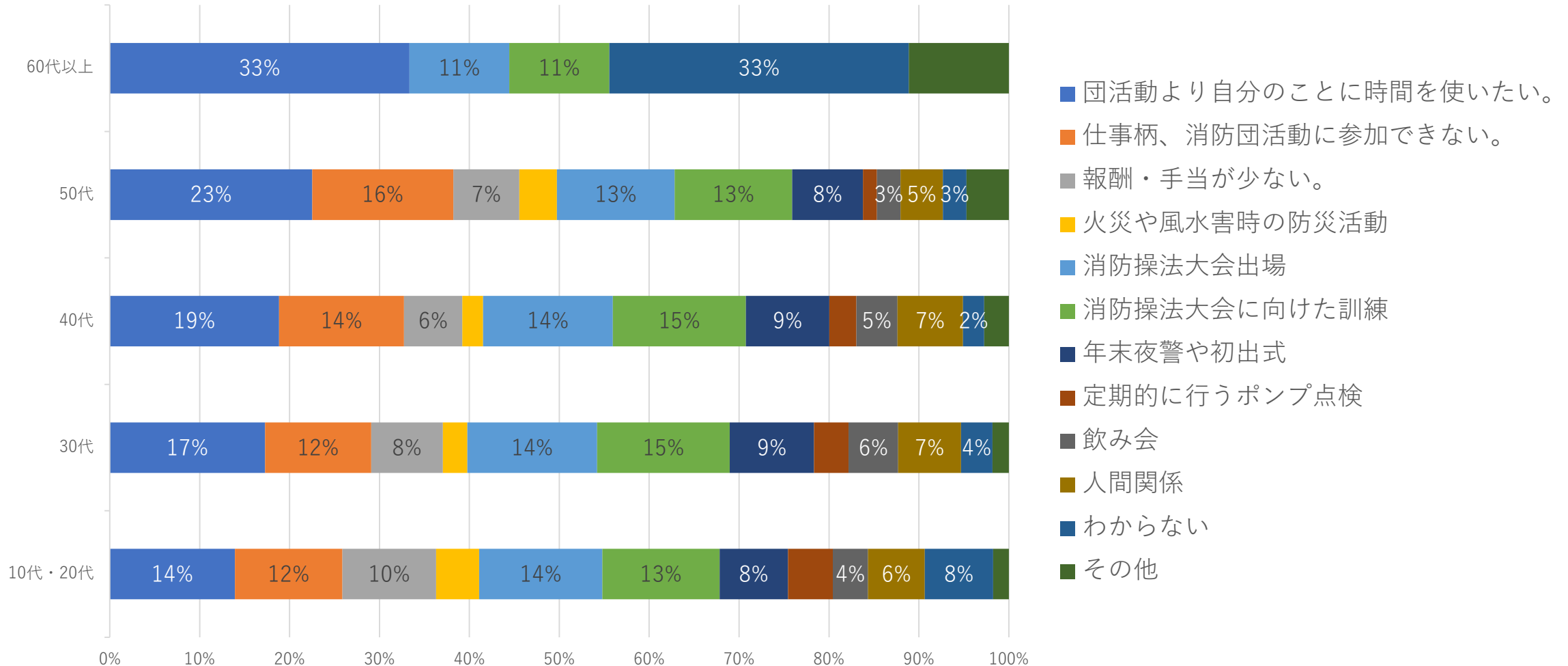
消防行事の負担



団員確保のための調査



消防団へ入団するために支障になっていること

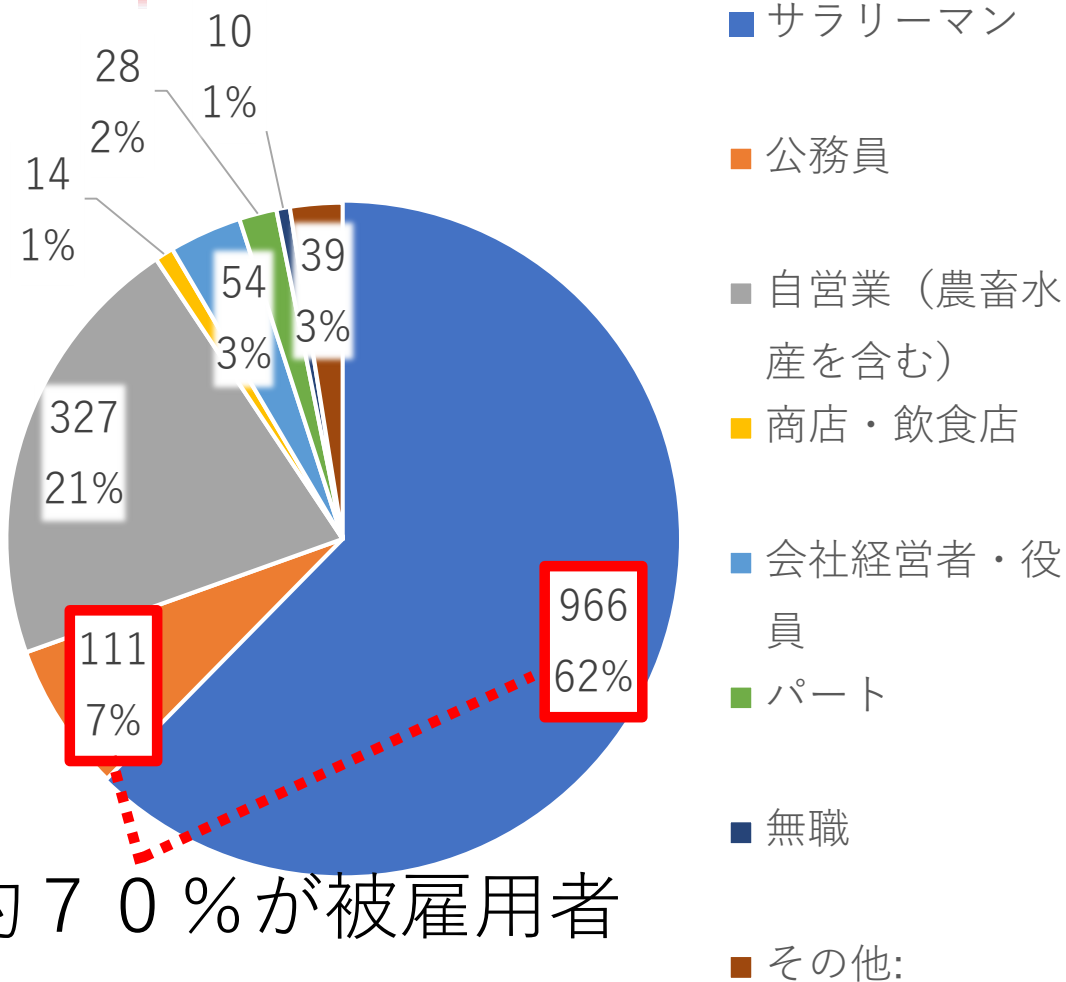




防災力の実情調査 (回答数1,549人)

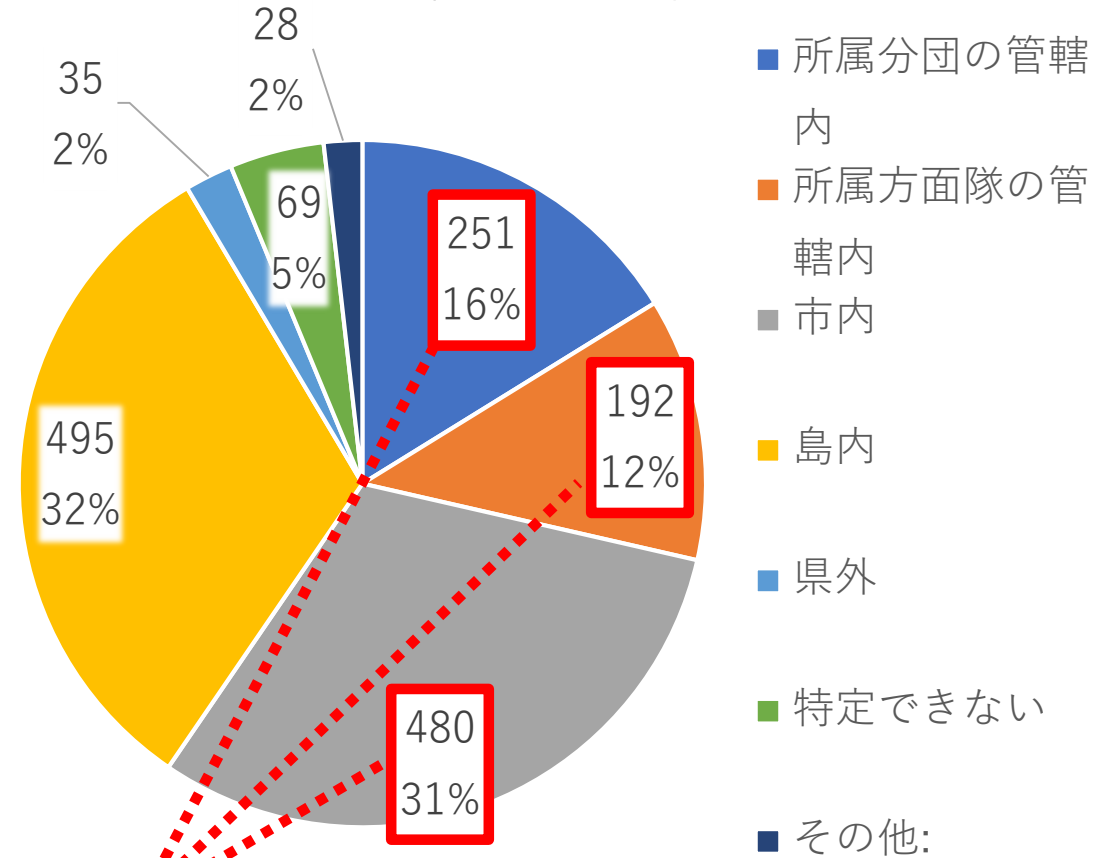


団員の従事する仕事



約70%が被雇用者

職場の場所



約60%が市内の職場

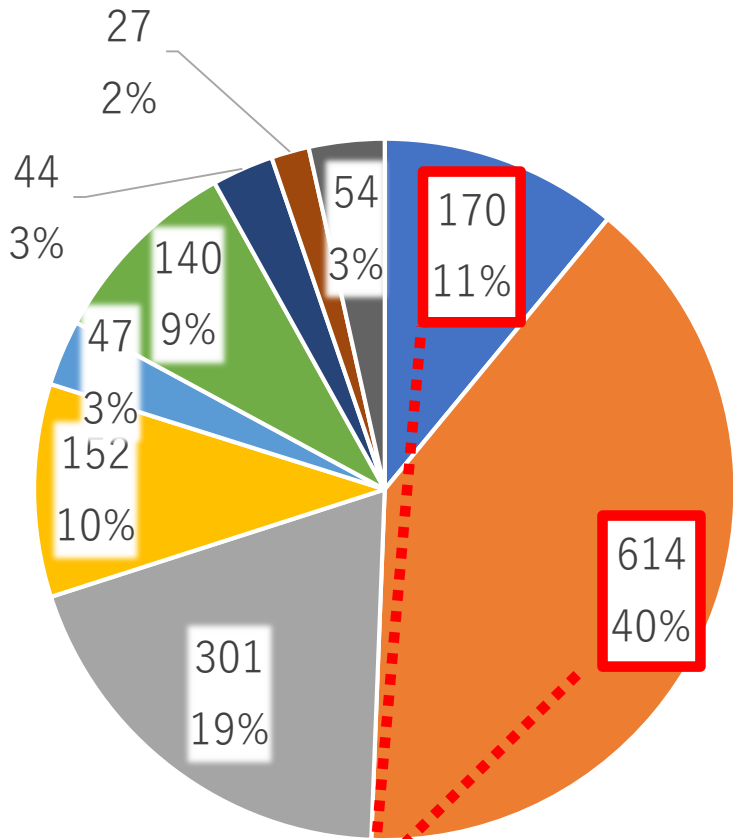


防災力の実情調査 (回答数1,549人)



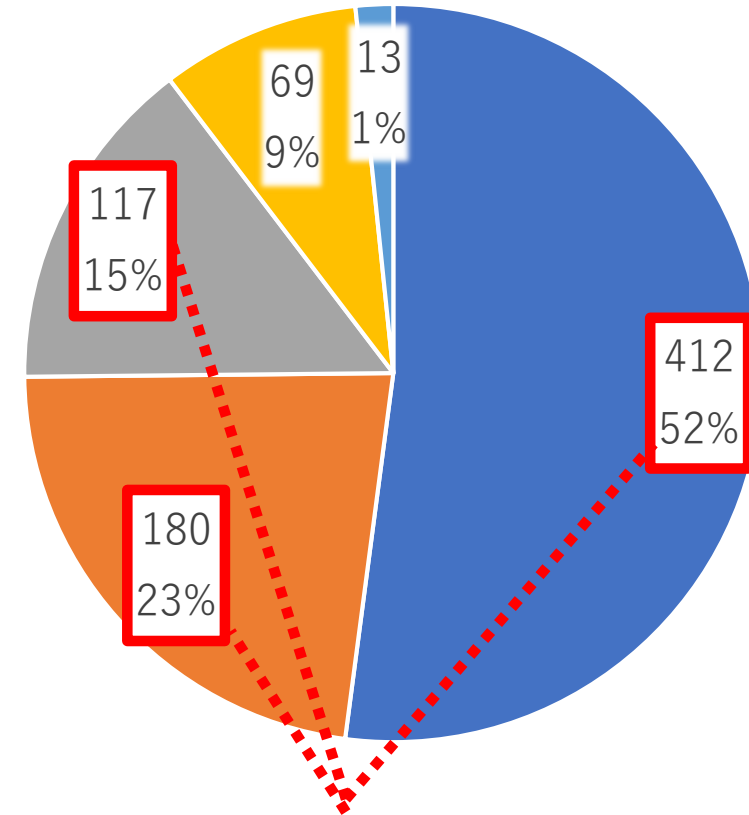
平日昼間の火災等災害に出動できるか

屯所参集までの時間 (平日昼)



- 出動できる
- 仕事に落ちついていれば出動できる
- 仕事が忙しいため出動できない
- 工作中携帯電話を見れないので出動できない
- 夜勤があるため出動できない
- 勤務地が遠いため出動できない
- 欠勤や早退の扱いになるから出動できない
- 会議や営業で外出が多いため出動できない
- その他

約50%が出動可



- 10分以内
- 20分以内
- 30分以内
- 1時間以内
- 1時間以上

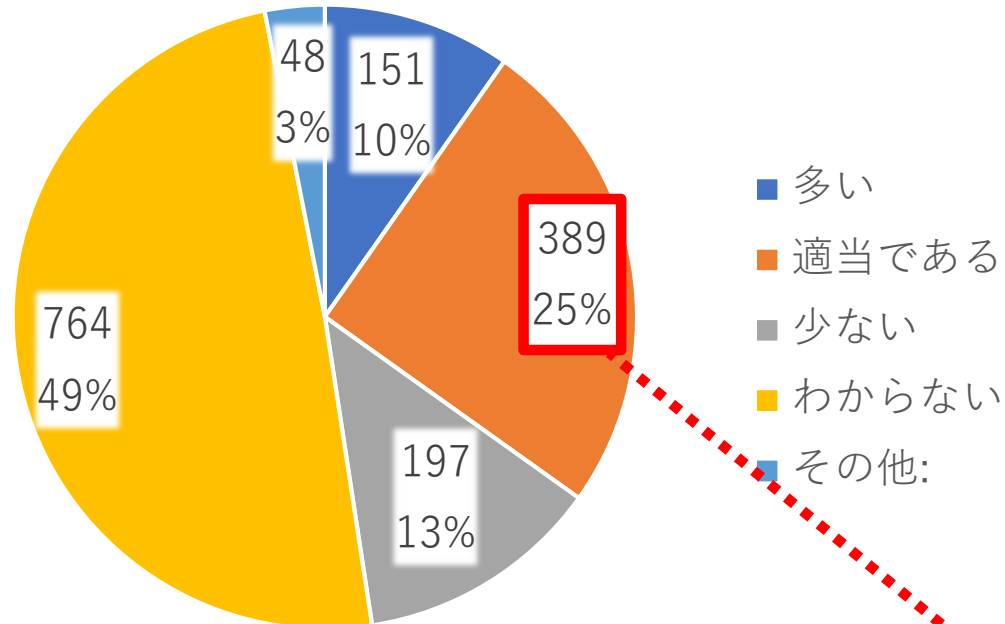
30分以内に90%が参集可



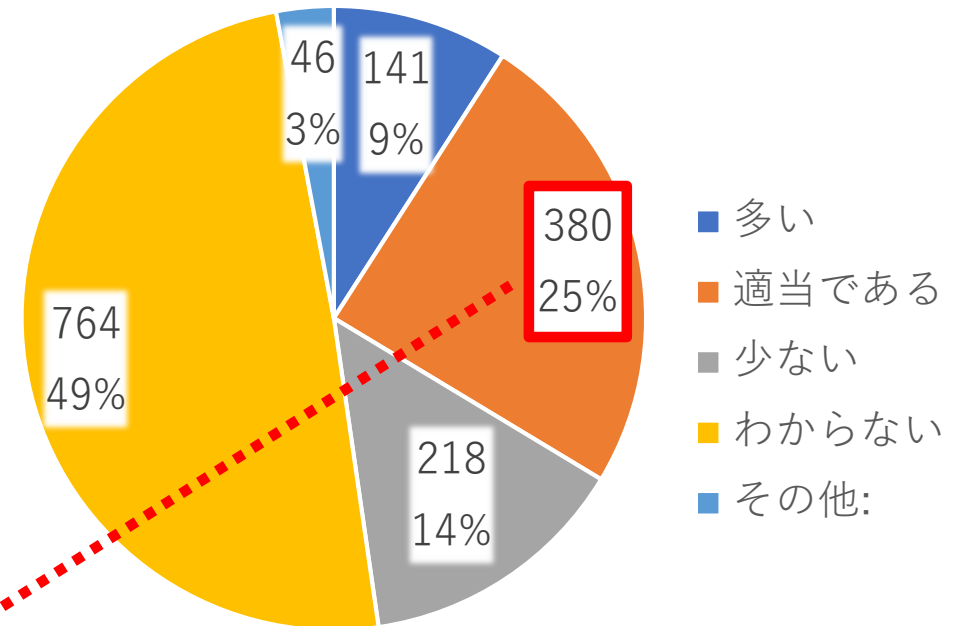
防災力の実情調査 (回答数1,549人)



大規模火災で対応する分団員定数



大規模風水害や地震で対応する分団員定数



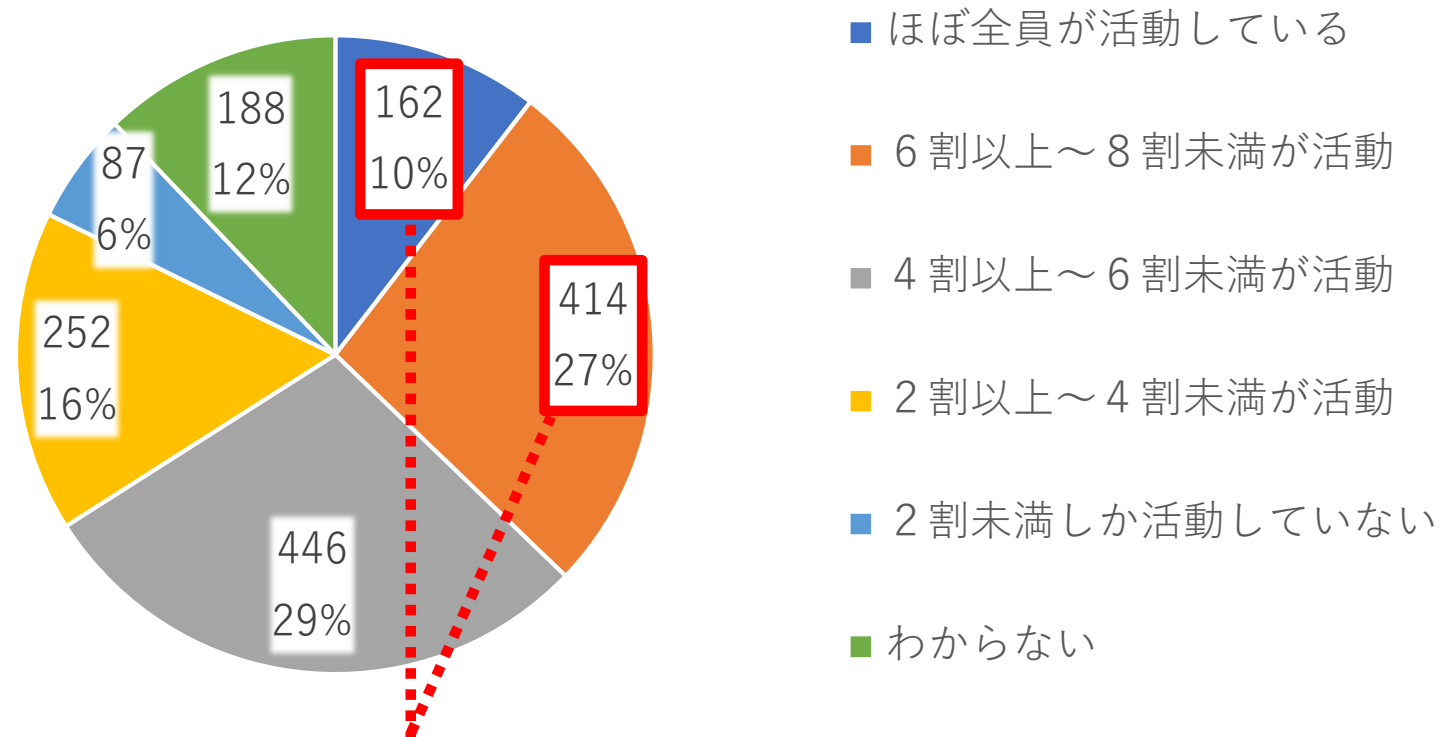
大規模災害時の消防団員定数は適当とする団員が多い。「わからない」という回答を除くと50%が「適当」と回答している



防災力の実情調査 (回答数1,549人)



実際に活動している分団（部）員の割合



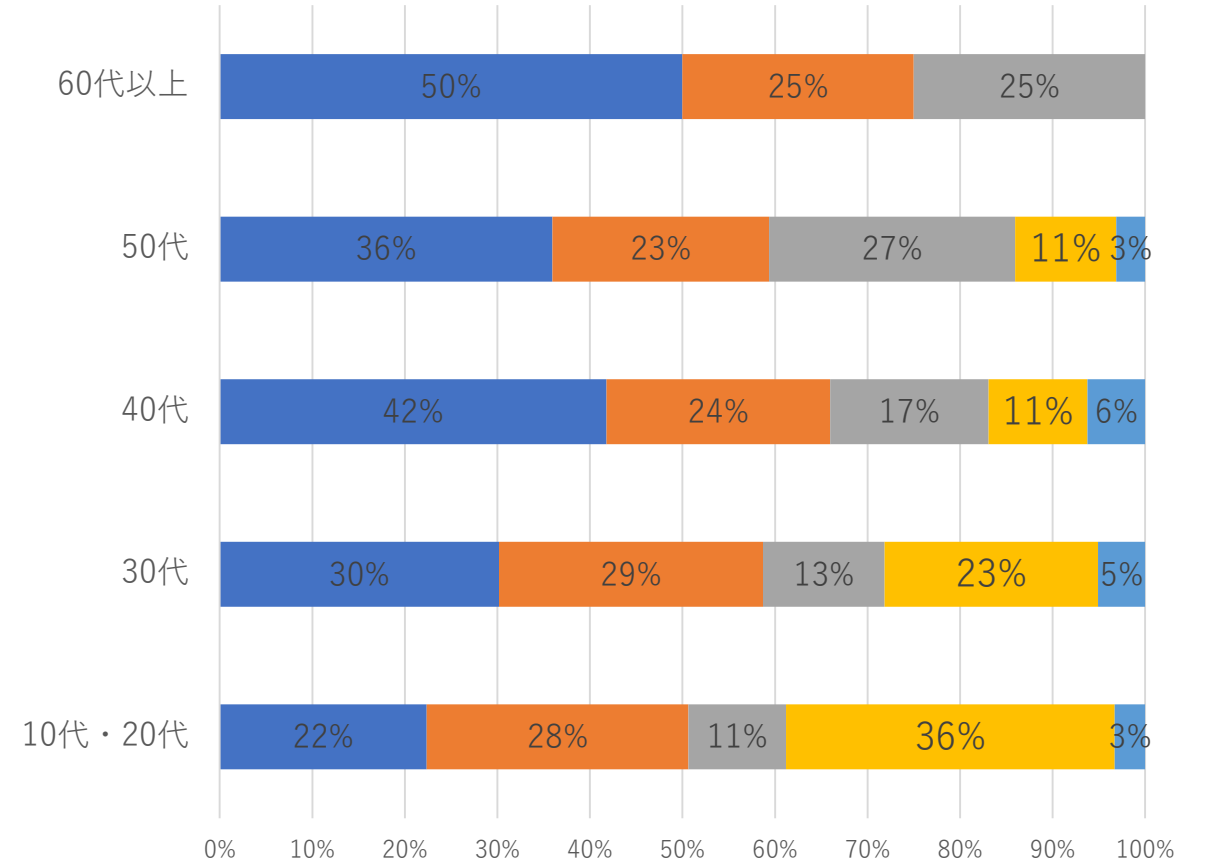
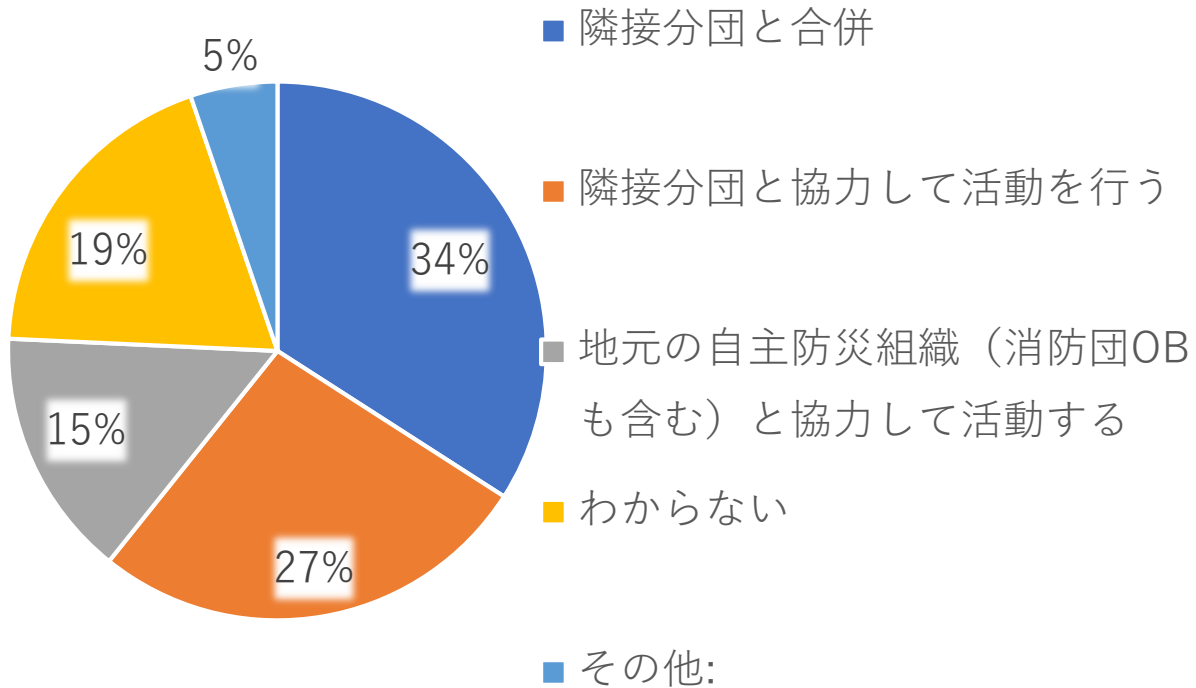
6割以上活動している分団が約40%



防災力の実情調査 (回答数1,549人)



分団として人数確保できない場合の改革

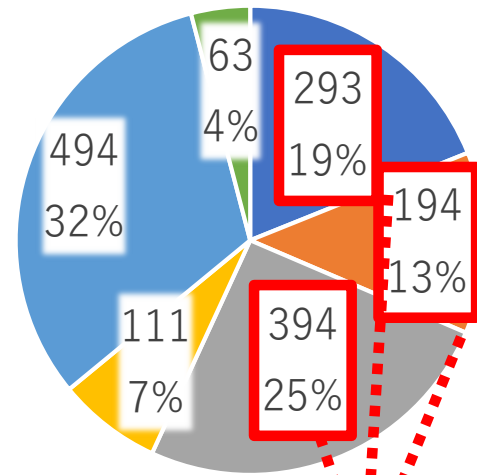




防災力の実情調査 (回答数1,549人)

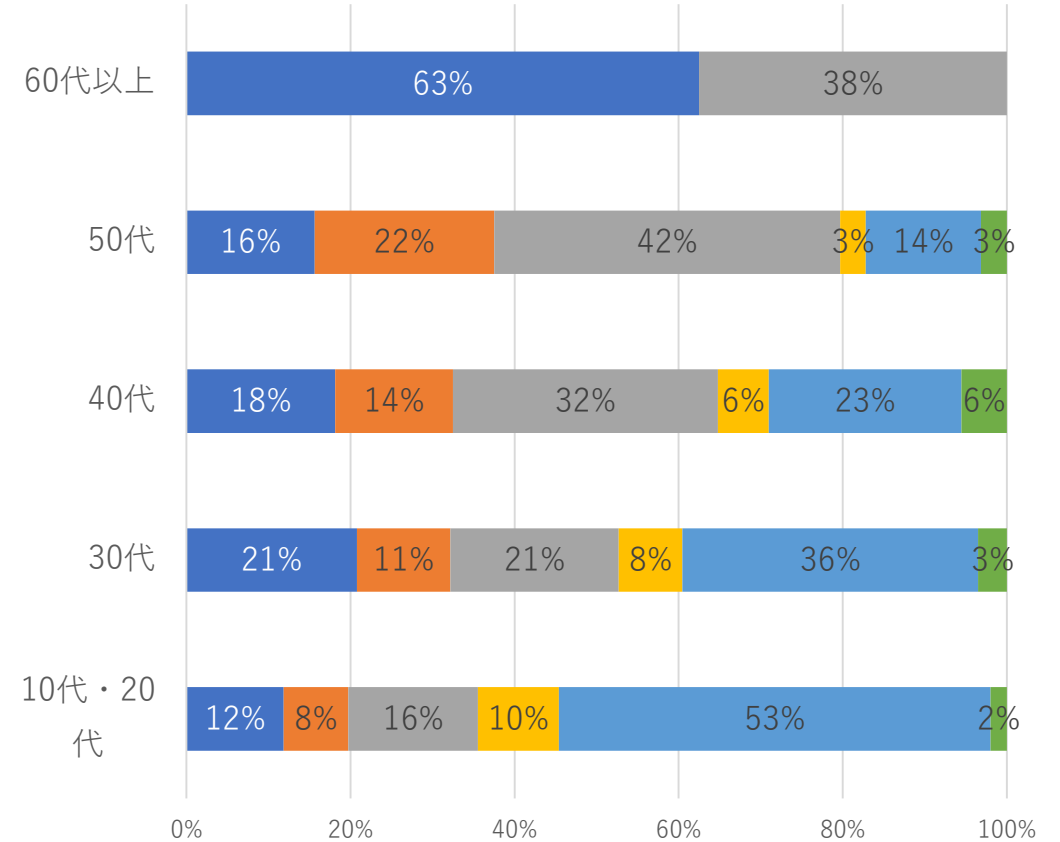


地元団員OBとの災害対応の連携



- 活動に参加してくれるなら再入団してほしい
- 機能別分団を結成し、協力してほしい
- 自主防災組織等の一員として協力してほしい
- 協力を得なくても分団で十分災害対応できる
- わからない
- その他:

約60%の団員が協力を必要としている





南海トラフ巨大地震等の対応について



大規模災害時の対策について

回答	回答数 (A)	A/1,549人	割合
消防団員数を増やす。	189	12%	10%
消防団の装備を強化する。	292	19%	15%
消防団OBを活用した機能別消防団を結成し、消防団との連携を強化する。	362	23%	19%
自主防災組織の活動を活性化し、消防団との連携を強化する。	483	31%	26%
自主防災組織があるので、消防団は現状のままでよい。	131	8%	7%
わからない。	434	28%	23%

団OBや自主防災組織の協力が必要



南海トラフ巨大地震等の対応について



大規模災害時の対策について

